

EUROBIKE2010

ドイツ南部のフリードリッヒスハーフェンにて、2010年9月1日(水)～4日(土)の4日間、今年で19回目となる自転車展示会 EUROBIKE2010 が開催された。ビジネス関係の来場者数は前年比 6.0%増の世界 102 カ国 41,482 人。出展社数は同比 7.5%増の 42 カ国・地域 1,114 社となり、出展者・来場者共に更に記録を更新した。特に来場者は 102 カ国からと昨年 75 カ国から 27 カ国も増えた。なお、今年は前年比 11.3%増、35 カ国 1,732 名の取材陣が訪れ、一般公開日には前年比 6.2%増の 22,300 名のユーザーが詰めかけた。

【EUROBIKE2010】

主催： メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地： ドイツ・フリードリッヒスハーフェン

会期： 2010年9月1日(水)～4日(土) 4日間

9/1-3 ビジネスデー、9/4 一般公開

展示会場及び面積： 14ホール、100,000㎡(昨年も同様)

入場者数： ビジネス来場者 104カ国 41,482人(昨年75カ国 39,152人)

一般来場者 22,300人(昨年 21,000人)

出展社数： 42カ国・地域 1,114社 ※9/9付リスト集計数(昨年 39カ国 1,036社)



東入口のファッションショーステージ



B5ホールに移ったウェアメーカー

1. 展示会概要

EUROBIKEの最多出展国はドイツの356社で昨年より6社増、全体の約32%を占め、欧州地域からは、次いでイタリア、オランダ、スイス等、上位は昨年同様だが、欧州では英国が前年より11社増の35社、スペインが8社増の23社、デンマークは5社増の13社等、増加が目立った。アジア地域の最多出展者は台湾208社であるが、中国からの出展は49社と昨年より13社も増加し、多くは電動アシスト自転車の出展者と見られる。また、米国は6社増の40社、カナダは2社増の7社と、北米地域からも増加傾向にあり、更に今年は南アフリカの出展者も2社ある等、出展者も一層世界的な広がりを見せた。

毎年増える出展希望者への対策として、今年はホールA3奥に仮設展示場を設け拡張した。

また、従来 A4 ホールにあったファッションショーステージを東入口広場に移転、併せて A4 ホールに集中していたウェア類の出展者を B5 ホールの昨年出展者（KTM、アクセルグループ等）と丸ごと入れ替える等、大胆なフロアプランの変更も行った。更に屋外 BMX ジャンプ台を縮小し屋外出展面積を拡大もしたが、もはや大幅な面積拡大は見込めない。

電動アシスト自転車の出展場所は昨年より設け中央部の会場（FG0）に欧州有力メーカー小間は集中し、ここから試乗車を借り別コースを走る形をなっていた。従来から電動アシスト自転車の出展社が集まるツェッペリンホールは、今回は中国等の新興メーカーが多く、昨年より試乗コースも短縮され、FG0 会場が同車種のメイン会場となった感があった。



FG0 会場の電動アシスト自転車コーナー



試乗コースへ向かう人々



ツェッペリンホールの様子

2. 人気が続くトラックレーサー

ロードレーサーや MTB 等のスポーツ車の最上級モデルは依然として多くのメーカーでカーボンフレーム車であり、配色は白をベースに黒や青又は赤の配色が多く見られたが、今年はそのに加えて緑の配色を加えたものが各社で目について増えた。しかし、各社で同じ流行を追えば、似通ったカラーリングや部品構成の製品となってしまうこともあり、そのブランド独自の強い個性や特徴などにより、他社との明確な差別化を図る必要がある。



緑の配色のスポーツ車が増えた（左；ベルガモント、右；CONWAY）



FUJI



GHOST

また、昨年に引き続きシングルギヤの街乗り用トラックレーサーも各社小間で多く見られた。今年はりム、ハンドルバーやギヤクランク等の部品も赤、青等の色付き部品が増え、ますますカラーが多様化していた。カーボン車に比べ安価なシングルギヤ車を中心に扱う新興メーカーの出展も増えており、同車種の人気はしばらく続くことも予想される。





シングルギヤ車の人気は顕在

3. 電動アシスト自転車

現在、欧州での電動アシスト自転車ブームの流れは同展でも今回は更に如実に見られた。従来はロードレーサーやMTB等のスポーツ車でも特に高級～中級品を中心に扱い、電動アシスト自転車を手掛けていなかったメーカーも今回は展示車種に電動アシストユニットを装着したスポーツ車が多く見られ、より多くのスポーツ車ブランドが本格的に電動アシスト自転車に進出し始めている。



スポーツ車タイプの電動アシスト自転車（左；スコット、右；センチュリオン）



キャノンデール



ステッペンウルフ

特に電動ユニットについては、今年発表されたシマノやポッシュのユニットを採用しているメーカー、車両も多く見られた。長らく日本製や台湾製のユニットを採用してきたメーカーでも、全てを一気に全て切り替えるのではなく、一部車種に採用する様子も見られ、電動アシスト自転車のユニットについては、まだ関連各社の新規進出やシェア競争は続きそうな勢いである。



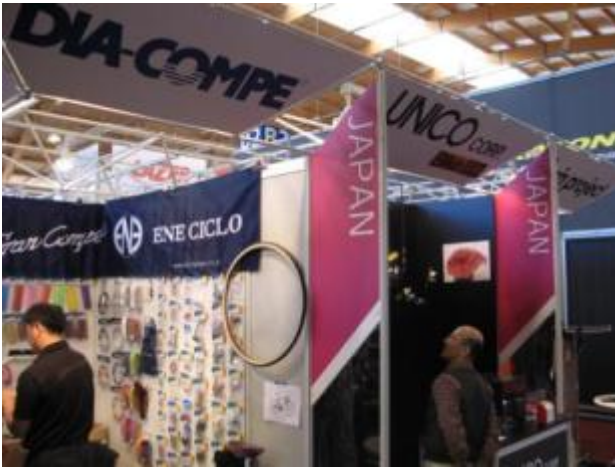
新しいユニットの装着車（左；シマノ、右；ポッシュ）

4. JBPI ブース

本年8回目の出展となるJBPIブースは、今年も面積60㎡のB2-204の位置に、(株)スギノエンジニアリング、(株)三ヶ島製作所、OGK技研(株)、井上ゴム工業(株)、(株)ヨシガイ、シナネン(株)、(株)シャノア、(株)ユニコ、Hide&Mc(有)及び日東(株)の昨年同様の計10社の日本企業が共同出展した。



共同出展ブース（左；JBPI、右；OGK）



共同出展ブース（左；DIA-COMPE、UNICO 右；PEdAL、IRC）

5. 今後の課題

今年は昨年より人の入りが少ないという意見も会期中に散見された。事実、朝夕の交通渋滞は昨年より緩和された。しかし、出展者、来場者共に昨年より増加した結果を見ると、人が減ったのではなく、メッセ付近の道路拡張工事が完了する等により交通アクセスの問題が改善したと見るべきであろう。同展はまた一步、国際自転車展の地位を確かなものとした。しかし、より一層、世界各国から出展者と来場者が集まるようになった今も宿泊施設の問題は解消されていない。

なお、次回開催は2011年8月31日(水)～9月3日(土)の4日間の予定である。

6. EUROBIKE 関連催事「DEMO DAY」

ユーロバイクの開催に先駆け関連イベント「DEMO DAY」が8月31日にアルゲンブールにて開催された。DEMODOYは各自転車メーカーより最新のスポーツバイクが提供され実際に試乗できるもので、メーカー側にとっては新製品のPRの場であり、また、一般サイクリストにとってはいち早くニューモデルを試せる場となっており今回で4回目を迎える。

【DEMO DAY2010】

- ・開催日時 : 2010年8月31日(火) 10:00～17:00
- ・会場 : アルゲンブール (Argenbuhl)
- ・出展社数 : 109社 (昨年92社 109ブランド)
- ・来場者数 : 業界関係者1,460人 (昨年: 計2,310人)

今年のDEMODOYはあいにくの曇り空となり、午後ときおり晴れ間が射す天候ではあったが、業界関係者で1,460人を集め、また、出展者も109社に上った。アルゲンブールのDEMODOY会場まではフリードリッヒスハーヘンメッセから車で40分程度、メッセ会場からは20分おきに専用シャトルバスが運行された。因みにメッセ会場10:20発のシャトルバスに乗車したが、バスは満席で立つ人も出るなど車内は80人ほどの人でいっぱいであった。



シャトルバス停留所



DEMODAY 会場全景

各テントブースには最新の MTB やロードレーサー、電動アシスト車などが展示され、各ブースには TEST RIDE と表示された試乗車が並ぶ。参加に当たっては、“万一の事故などの際には自己責任においてリスクを負う” などといった誓約書にサインをし、腕にブルーバンドを付ければ OK である。試乗参加者は、各ブースで希望の自転車を借りて会場外の 5 つのコースで試乗することが出来る。自転車を借りる際にはパスポートなどの身分証明書をデポジットとして預けることになるが、中にはデポジットなしで貸し出すところもあった。



試乗車（会場内はぬかるみ状態）



会場内風景

試乗コースは、MTB 用が 3 コース、オンロード用 2 コースの全部で 5 コースあり、長短あり、アップダウンありのバラエティ豊かなコースとなっている。なお、オンロード用に設定されているコースは通常自動車を通る道路そのもので、必ずしも全行程を走りきらなくて途中で U ターンしてもよい。雄大な自然の中を通る道路をときおり自動車がすれちがうことはあるものの、比較的のんびりとサイクリングが出来るコースとなっていた。



コースマップ



コーススタート地点

試乗参加者の中にはサイクルジャージに、サイクルシューズ、ヘルメット持参と気合の入ったサイクリストたちもいた。あいにく前日に降った雨の影響で会場内の路面は一部水たまりもある完全なぬかるみ状態であり、同様に、会場外の MTB コースもぬかるんだ路面のため、コースから帰ってくる試乗参加者は全身泥まみれ状態の人が多かった。ただ、皆泥まみれになるのを楽しんでいるようにも見えた。試乗車は MTB の他、ロードレーサー、電動アシスト自転車やリカンベント車も用意されていた。



泥まみれの参加者

出展者はスコット、キャノンデール、スペシャライズド、ビアンキ、ジャイアント…などで、各社の試乗車や展示車は、カーボンフレームにサスペンション装着の MTB を中心とした展開となっていた。特にキャノンデールの電動アシスト自転車は、斬新なフレームデザインとレフティーのフロントサスペンションにボッシュの電動ユニットを組み込んでおり、テレビ取材を受けるなど注目を集めていた。



ピアンキブース



取材中のキャノンデール電動アシスト自転車

以上

(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。



「参考」

別表：EUROBIKE2010 国・地域別出展者数

国・地域名	出展社	国・地域名	出展社
ドイツ	356	ギリシャ	1
イタリア	155	セルビアモンテネグロ	1
オランダ	49	マルタ	1
スイス	37	スロベニア	1
英国	35	サンマリノ	1
スペイン	23	リトアニア	1
フランス	21	チュニジア	2
オーストリア	19	南アフリカ	2
ベルギー	17	米国	40
デンマーク	13	カナダ	7
チェコ共和国	12	オーストラリア	2
スウェーデン	5	ニュージーランド	1
ハンガリー	5	台湾	208
ポルトガル	4	中国	49
スロバキア	3	日本	15
ブルガリア	3	香港	6
フィンランド	2	タイ	5
ポーランド	2	パキスタン	2
トルコ	2	韓国	1
イスラエル	2	スリランカ	1
ノルウェー	1	マカオ	1
		合計 42 カ国	1,114 社

※上記数値はメッセ事務局 9/9 付出展者リストより集計。